

## 抄 録

### 福島県沿岸域における堆積物中の<sup>137</sup>Cs濃度の経時変化

鈴木翔太郎\*・天野洋典\*\*・榎本昌宏・松本 陽\*\*\*・守岡良晃・佐久間一幸\*\*\*\*・  
鶴田忠彦\*\*\*\*・帰山秀樹\*\*\*\*\*・三浦 輝\*\*\*\*\*・津旨大輔\*\*\*\*\*・神山享一\*\*\*\*\*・  
和田敏裕\*\*\*\*\*・高田兵衛\*\*\*\*\*

Temporal variability of <sup>137</sup>Cs concentrations in coastal sediments off Fukushima

Shotaro SUZUKI, Yosuke AMANO, Masahiro ENOMOTO, Akira MATSUMOTO, Yoshiaki MORIOKA, Kazuyuki SAKUMA, Tadahiko TSURUTA, Hideki KAERIYAMA, Hikaru MIURA, Daisuke TSUMUNE, Kyoichi KAMIYAMA, Toshihiro WADA and Hyoe TAKATA

Science of The Total Environment, Volume 831, 20 July 2022, 154670

本研究では、福島県が実施する緊急時モニタリングのデータのうち2011年5月～2020年3月までに実施した沿岸域8定線と松川浦3定点のデータ（全3,647サンプル）を用いて堆積物中の<sup>137</sup>Cs濃度の経時的な変化を明らかにした。堆積物中の<sup>137</sup>Cs濃度は事故直後から急激に低下したが、その低下に鈍化がみられた。また、台風時のような大規模降雨の後に水深7、10、20 mの地点において堆積物中の<sup>137</sup>Cs濃度が最大約4倍に増加した。数値モデルを用いて堆積物中の<sup>137</sup>Cs濃度を推定したところ、河川を介した陸域からの<sup>137</sup>Csの供給が沿岸域の堆積物中の<sup>137</sup>Cs濃度を維持する可能性が示された。これらの結果から、堆積物中の<sup>137</sup>Cs濃度の低下の鈍化や濃度が維持される主な要因は、大規模降雨時の河川を介した陸域からの<sup>137</sup>Csの供給にあることが示唆された。

\*福島県水産課

\*\*福島県水産事務所

\*\*\*公益財団法人海洋生物環境研究所

\*\*\*\*国立研究開発法人日本原子力研究開発機構

\*\*\*\*\*国立研究開発法人水産研究・教育機構

\*\*\*\*\*一般財団法人電力中央研究所

\*\*\*\*\*福島県水産資源研究所

\*\*\*\*\*福島大学環境放射能研究所